

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-199807

⑮ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑯ 公開 昭和61年(1986)9月4日

A 45 D 34/04

6671-3B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑰ 発明の名称 繊維材入りマスカラ用容器

⑱ 特 願 昭60-38870

⑲ 出 願 昭60(1985)3月1日

⑳ 発 明 者 奥 田 吉 則 滋賀県野洲郡野洲町大字上屋八八番地 マックスファクター株式会社滋賀工場内

㉑ 発 明 者 益 山 勝 三 東京都府中市西府町4-25-40

㉒ 出 願 人 マックスファクター株式会社 東京都渋谷区神南1丁目12番13号

㉓ 出 願 人 東京パーツ株式会社 東京都府中市日新町1丁目2番8号

㉔ 代 理 人 弁理士 寺 田 正 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

繊維材入りマスカラ用容器

2. 特許請求の範囲

1. 繊維材入りマスカラを収納する容器本体と、この容器本体の口部に着着する蓋とからなり、この蓋に、容器本体内部へ伸びる軸体と、この軸体先端において、略横方向に伸び繊維材を嵌入保持する溝とからなる蓋布具を設け、さらに容器本体の口部に、蓋布具を引出す際に、容器本体内部側が大径のテーパー状表面を有し、蓋布具外周に付着したマスカラを払拭するとともに、溝から一部突出した繊維材を溝内に押し込む払拭パツケン体を設けたことを特徴とする繊維材入りマスカラ用容器。

2. 払拭パツケン体を薄板材より形成し、蓋布具着込み時には容器本体内部側が小径のテーパー状であり、蓋布具引出し時に反転して容器本体内部側が大径のテーパー状表面が形成されるようにした特許請求の範囲第1項記載の繊

維材入りマスカラ用容器。

3. 払拭パツケン体の容器本体内部側表面をテーパー状に形成した特許請求の範囲第1項記載の繊維材入りマスカラ用容器。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は眼毛、合成繊維片等を混入させた繊維材入りマスカラについて使用する容器に関する。

(従来の技術)

従来は繊維材入りマスカラに、通常の繊維材を混入させないマスカラの容器をそのまま使用していた。すなわち容器本体と蓋とからなり、蓋に刷子状、櫛状あるいは溝状の蓋布具を取付け、容器本体の口部に払拭パツケン体を設けた容器を用いていた。

(発明が解決しようとする問題点)

この容器を繊維材入りマスカラについて用いると、刷子状蓋布具では、繊維材が付着したとき、その方向が不定となるので着布しにくい。

筒状塗布具では、筒状の側面に繊維材が方向を不定にして付着するので扱いにくい。溝状塗布具では、溝内に方向を揃えて繊維材が詰められるので塗布しやすいが、塗布具を容器本体から引出すとき、容器本体内で溝に一部嵌合して付着した繊維材が口部の払拭パッキン体で拭い取られてしまい、極めて少量の繊維材しか取出すことができない。

そこで本発明は、この塗布しやすい溝状塗布具を用い、溝内に多量の繊維材を含ませて取出すことができるような容器を実現することを目的としてなされたものである。

(問題点を解決するための手段)

すなわち本発明は、溝状塗布具と、容器本体内部側が大径のテーパ状表面を有する払拭パッキン体とを組合せて使用するよう構成したものである。

(作用)

したがって本発明の容器では、塗布具を引出す際、払拭パッキン体は、溝に一部嵌入し、一

部突出した状態で付着している繊維材を拭い取るのではなく、反対にそのテーパ状表面で溝内に押込む作用をし、多量の繊維材を取出すことができる。

(実施例)

以下本発明を図示する実施例について説明する。第1図に示す容器10において、容器本体11は内部に繊維材入りマスカラ12を収納し、蓋13はこの容器本体11の口部に蓋着する。

蓋13には軸体14および溝15からなる塗布具16が取り付けられている。軸体14は丸棒・棒・円棒等の棒状体よりなり、蓋13から容器本体11内に伸びる。溝15は、第2図に示すように、軸体14の先端の正面および背面に、横方向に伸びるように形成されている。この溝15内にはマスカラ12を溜めることができ、また、溝15の内部にマスカラ12中の繊維材17を嵌入保持することができる。さらにこの溝15は軸体14の正面と背面とで大きさが異なり、まづげに塗布する際両者を使いわけ濃度の調節をすることができる。なおこの例

では大小2種類の溝を形成しているが、1種類でも、3種類以上を形成してもよく、また溝は正確に横方向に伸びるもののほか斜方向等略横方向に伸びるものであればよい。さらに溝の断面形状も四角形状に限らず、三角形状等任意の形状とすることができる。

容器本体11の口部には払拭パッキン体18が設けられ、塗布具16を引出す際、塗布具外周に付着したマスカラ12を払拭する。この払拭パッキン体18はゴム等の弾性材より形成され、塗布具16差込み時には、第3図に示すように、容器本体11内部側が小径のテーパ状であり、塗布具16引出し時には、第1図に示すように、反転して容器本体11内部側が大径のテーパ状表面19が形成される。

なおこの払拭パッキン体18に代えて、第4図に示す払拭パッキン体18'のように、容器本体11内部側が大径のテーパ状表面19'となり、反転しないものを用いてもよい。

(発明の効果)

この容器10は以上の構成であるから、塗布具16を容器本体11内に差込み、マスカラ12を溝15に付着させた後、引出すと、払拭パッキン体18は、塗布具16外周に付着したマスカラ12を払拭するとともに、溝15から一部突出した状態で付着している繊維材17を、そのテーパ状表面19で溝15内に押込む。したがって引出した塗布具16の溝15内には多量の繊維材17が嵌入保持され、しかもこの繊維材17は溝15に沿って同方向に揃っているので、容易かつ良好にまづげに塗布することができる。

さらに上記払拭部材18のように反転するものでは、溝板材を用い、しなやかに塗布具に接するようにすることができ、塗布具の出入の際の摩擦を良好なものとすることができる。

すなわち本発明の繊維材入りマスカラ用容器では、溝状塗布具の扱い易さを生じつつ、さらに払拭パッキン体にテーパ状表面を設け、この面で繊維材を拭い取るのではなく、溝内に押込む作用をさせ、繊維材を良好に取出し、有効に

使用することが可能となる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の微布具引出し時を示す正断面図であり、第2図(A)(B)(C)はそれぞれ微布具の正面図、右側面図、背面図、底面図であり、第3図は同実施例の微布具差込み時を示す正断面図である。第4図は他の拡張ボタン体を用いた例を示す正断面図である。

10 …… 硬絶材入りマスカラ用容器、 11 …… 容器本体、  
12 …… 繊維材入りマスカラ、 13 …… 蓋、  
14 …… 軸体、 15 …… 弾、 16 …… 微布具、 17  
…… 繊維材、 18, 18' …… 拡張ボタン体、 19、  
19' …… テーパ状表面。

特許出願人

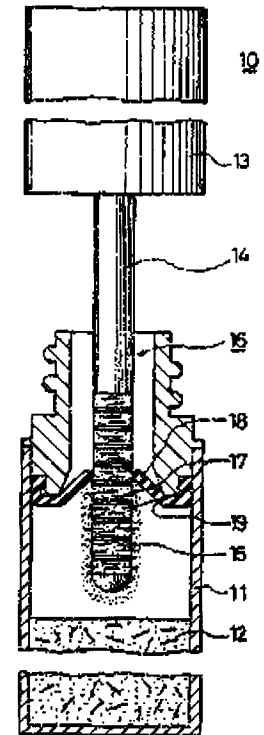
マックスファクター株式会社

東京ベーツ株式会社

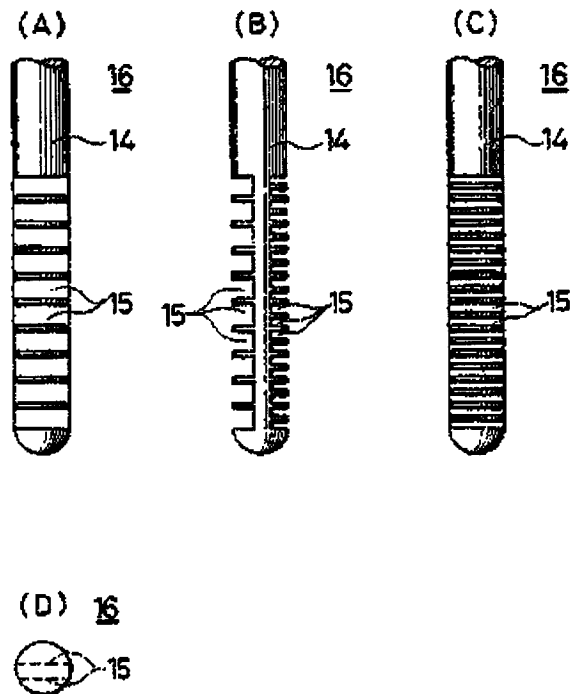
代理人

弁護士 寺田 正外(名)

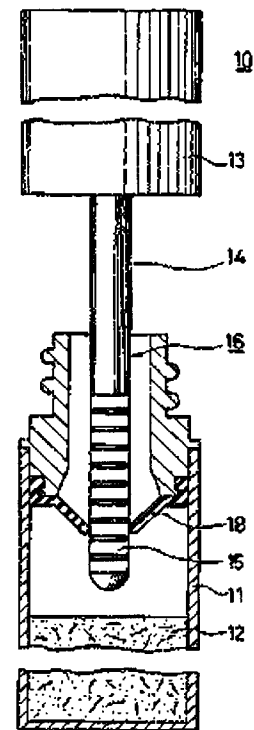
第1図



第2図



第3図



第4図

